

第12期員弁組連続研修会

令和4(2022)年5月14日

# れんげんだより 1

## 第1回研修

発行責任者

員弁組連研事務局

松隆寺 渡辺邦俊

## 5年ぶりの連研開講式

4年に一度の第12期員弁組連続研修会が1年遅れで実施され、開講式と第1回研修が5月14日(土)の午後2時から行われました。

コロナ禍での開催ということで、従来の員弁組内寺院ではなく、いなべ市大安公民館を会場にしました。また、過密防止を理由に定員を設けましたが、受講者はその3分の2の16名となりました。

手指の消毒と検温を入場者すべての方に実施すること、マスク着用をお願いすることなどは、過去の連研にはなかったことです。

来年7月まで全18回の研修カリキュラムのうち、第3土曜の夜開講する13回は全て組内の僧侶が講師となります。仏事作法等の講義、また、12の問いをテーマに問題提起の講義があり、そして話し合い法座、その後まとめの講義となります。

残る5回は、土曜の午後2時からの開講となり、開講式と修了式の2回を含めて、外部講師による講義を採り入れます。

開会式では、ご本尊の前で讃仏偈のお勤めがあり、その後、木村英昭員弁組組長の挨拶と、連研に関わるスタッフの紹介がありました。

組長をはじめとする員弁組三役5名、テーマ講師12名、仏事作法講師6名、そして、スタッフの僧侶2名、話し合い法座の座長などで関わってもらった門徒推進委員会の役員と連研部員(出席者のみ)13名の紹介があつて、開講式が終わりました。



木村英昭組長

4年に一度の連続研修会が始まりました。1年ほど遅れての開催となります。ようこそご参加いただきました。…員弁組の連研は、1979年から始まり、今回で第12期目となります。…

参加されたきっかけは住職から勧められたからとかいろいろおありでしょうが、連研ではともにも集う仲間として、話し合い、聞き合いながら気づきを得ていただきたいと思っております。…

来年7月までの1年3か月と長丁場ですがよろしくお願いたします。

### 第1回研修

演題 「連研とは」

講師 麻布明德さん

連研中央講師(中勢組善福寺)

ちょっと立ち止まって見てみませんか

人を見たとき、あるいはものを見たとき、これはこれ、あれはこれと決めつけていませんか。

ちよつと立ち止まって、別の角度から見てみれば、いろんな姿に見えてくるんですよ。

私たちは、目で見たもの、耳で聞いたもの、感じてみたもの、正しいと思いがちです。周りの風景に引張られて判断してしまうのです。

ちよつと立ち止まって、別の角度から見てみたら：・実は違った姿にも見えてくることがあるんだよということ、この連研で感じていただきたいのです。



麻布明德さん  
(津市 善福寺)

**浄土真宗でよかった、こういうところがよかったと、それぞれが感じてほしい**

諸行無常。全てのものは移り変わるものです。そのことを本当に分かっていけば、移り変わることを自體を受け入れていけばいいのだが、受け入れられない私がいる。

私たちが生きていく中で、どのように物事をとらえていったらよいかを、この連研の中でぜひ感じてほしいのです。

【講座前半より抜粋】

**予習はいりません**

連研ノートE. 12.の問い。

予習はしなくていいですよ。

話し合い法座で知識を習得することを主眼にしてはいけません。

**自分に気づく**

自分のことは、自分だからこそわからない部分がいっぱいあるのかもしれない。

そういうことを、連研で皆さんと話し合ったり、あるいは問題提起でいろんなことを語り合う中で、心の中のことを口に出していただき、あるいはほかの方の人生なんかを聞かせていただくことで、自分の中でいろんなものが熟成されてくるのではないかとね。

自分のイヤな面を見るかもしれないけれど、そうなんだ、こういう考え方もあるんだと、感じていただくとともに、仏教の、仏さまの、お釈迦さまの、親鸞聖人の、教えというものを振りどころというか、中心に据えながらいろいろ感じていただくことが主題になるのだと思います。

ですので、皆さんが今ここにいるというのはすごいことなんです。自分の意志で来たと言うかもしれない。しかし、角度をかえて見てみれば、私がおこに来るために、どれだけの方々が働いてくださったか、いたのかを感じていくというのも一つの味わいでしょう。

**連研とは？**

連研の良いところは、いちばん身近な住職の方が講師となってしゃべってもらえるところ。そして、僧侶が一生懸命になって汗をかきながら、皆さん参加者とともに連研を作り上げていくところです。

素朴な自分が思っている思いをぶつけていただいて何ら問題ない。ただし、人を傷つけたりすることはそれはおかしいです。自分の思いを、心の底の声を聞いていくことによってそれを出していただくことが大切です。

この連研での話し合いは、誰かを論破するとか、勝ち負けとか、あるいは結論でこれが正解ですという話ではありません。

なぜか？ 私たちそれぞれの人生に正解なんて、誰かが決めるような正解があるわけがありません。でも、自分のことを見つめていくためには、何かがないとわからない、自分だけでわかるというものには残念ながらないんだと思います。

【講座後半より抜粋】